

# 彙報

## 令和四年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

### 【研究会】

#### ○研究所研究会

##### ※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

##### ※活動実績

四月十五日（金） 於：高野山大学第一会議室

デジタル絵図研究会（森真幸・藤吉圭二）

「えづけんの活動を中心として」

十月二十日（木） 於：高野山大学第一会議室

徳重弘志「インドにおける法身説法について」

十月二十一日（金） 於：高野山大学第一会議室

大柴清圓「弘法大師の生誕地における「考察」

大家秀夫「空海における曼荼羅の意味について

―二重二諦説に基づく解釈の試み―

十一月十七日（木） 於：高野山大学第一会議室

菊谷竜太・Daisy Cheung

[A Preliminary Survey on a Sanskrit Manuscript Folio of

an Anonymous Commentary to the *Sādhurāṣikā*

*\*Lokālokarīkā of Dhpankarahadra]*

十一月十八日（金） 於：高野山大学第一会議室

木下智雄「近世御流神道の神祇灌頂次第について」

木下浩良「萱堂歴代寛心上人の五輪塔群について」

#### ○弘法大師著作研究会

##### ※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年年度から弘法大師の著作をテキストとして研究会を開催し、その研究成果を公表する。

##### ※会員

松長有慶、川崎一洋、北川真寛、櫻木潤、佐藤隆彦、武内孝善、土居夏樹、

徳重弘志、那須真裕美、藤田光寛、松長潤慶、南昌宏、米田弘仁

##### ※活動実績

『秘密曼荼羅十住心論』の研究会を原則として月一回行った。

（発表者及び日程）

米田弘仁：四月二十八日、六月九日、七月十四日、十月十三日、

十一月十日、十二月十五日

##### ※刊行物

研究会の成果を、『密教文化研究所紀要』別冊として、以下の内容で発行する。

『秘密曼荼羅十住心論』の研究 令和五年三月 発行予定

## ○南山教学研究会・真言教学研究會・宗学連携事業

※これらの事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「令和四年度研究活動報告」(後掲)を参照願いたい。

## ○密教文献英訳推進会(令和三年度より開始)

## ※趣旨

高野山大学・高野山真言宗・高野山住職会の宗学連携事業。

弘法大師及び密教に関する英文資料を作成し、英語文化圏の人たちへの布教・伝道に役立て、広く人類の幸福と社会の発展に寄与する。

## ※担当

トーマス・ドライトライン(本学名誉教授)

## ※活動実績

弘法大師関係の資料収集、英文による入門書等の作成を遂行中。

## 【論文】

An Annotated Translation of Kūkai's Jijūshū ron, Fascicle One

(空海選『十住心論』巻第一の英訳研究)

本誌掲載

## ○巡礼遍路研究会(協力事業)

## ※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

## ※役員

名誉会長…山陰加春夫

会 長…柴谷宗叔

事務局長…谷口眞梁

## ※会員数

約二百名(法人・団体含む)

## ※活動実績

巡礼遍路研究会第8回研究発表会兼総会

日時…令和四年六月十八日(土)

場所…高野山大学第三会議室

## 基調講演

筒井正(名古屋商科大学非常勤講師)

「聖徳太子の仏教の受容と信仰の広がり」

## 研究発表

近藤隆二郎「写し巡礼における模倣と再創 写し巡礼地の保全に向けて」

村上 昭彦「地方巡礼の原風景を探る 百堂参りから香取郡諸霊場へ」

参加者 三二人

会員数 二二六人

## ※刊行物

『巡礼遍路研究』第七号発行(令和四年五月十五日)

## 【講演会】

## ○人権講演会

日程…令和四年十月十九日(水)

場所…高野山大学第三会議室

講師…村上あかね(桃山学院大学准教授)

「自宅療養者実態調査から考えるウィズコロナ社会と人権」

## 【その他事業】

## ○高野山聖教調査研究

清浄心院文書の調査を継続する傍ら、他寺院関連の史料につき、自治体史を中心として収集中。

## ○博学連携事業

御影堂文書の調査を継続。今年度は番外9箱分の調書を継続中。

## ○ゴルドン文庫調査研究

令和四年度より図書館から移管した事業。図書館が所蔵するゴルドン夫人関係の資料を調査研究する。

## ○龍光院文書調査研究

令和四年度より図書館から移管した事業。図書館が所蔵する龍光院の古文書・聖書類を調査研究する。

## 令和四年度研究活動報告

専任研究員 大柴 清園

筆者は密教文化研究所が掲げる三つの研究テーマの一つである「弘法大師の思想とその展開に関する研究」の範疇となる弘法大師研究に従事している。

本年は弘法大師ご生誕1250周年を迎える年である。筆者は弘法大師の生誕地に関して、畿内誕生説を再考し、弘法大師の生誕地は従来の伝統説の如く讃岐国多度郡であることを論じた。その最大の論点となる「二兄重逝」に関して、『壘誓指帰』と『三教指帰』の比較から、仮名を児論に現れる「或(あるひと)」は『三教指帰』序文の「二多親識」であり、実在した人物と考えられる。その「或」と仮名を児との対話の中に「二兄重逝」が語られている。前後の文脈で記されている事も含めて、「二兄重逝」は二十四歳の弘法大師にとって実際の出来事であったと捉えるのが妥当であろう。また畿内誕生説には両『指帰』における出自に関する虚亡隠士との問答部分の誤読が認められる。

本年は真言宗門において、嵯峨天皇による東寺下賜の1200周年に当たると信じられている。これは『御遺告』第一条に載せるいわゆる「弘仁十四年正月十九日勅書」に基づくものである。しかし実際は実恵師の書簡に見る如く、東寺は僧綱として少僧都の弘法大師が造寺別当に補任した官寺であり、「弘仁十四年正月十九日勅書」は『御

遺告』の偽作者である観賢師らが東寺を私のものとするために偽作したものと考えられる。また「教王護国寺」の名称は、東寺講堂二十一尊が「仁王護国般若波羅密多經」と「金剛頂一切如来真実観大乘現証大教王經」を典拠に造られたという誤解に基づいて観賢師らが偽造した寺名と考えられる。

筆者は令和四年度中野義照博士奨学金奨励研究員に採用され、その研究課題である『三教指帰』校訂研究を進めている。筆者は、近年提示された『三教指帰』偽作説を完全に否定した(『三教指帰』真作説)『密教文化』204・「再論『三教指帰』真作説」『密教文化研究所紀要』29・「壘誓指帰と三教指帰―空海大師真作の証明―」大遍照院、2022)。偽作説には多くの誤りが看取されるが、その誤解の根本原因として、偽作説は『三教指帰』のテキストとして多くの欠陥が存在する建長本(高野版)とその活字化した『日本古典文学大系』本を用いていることが挙げられる。偽作説は、建長本のテキスト上の誤字脱字を『三教指帰』の偽作者が故意に行った改変と見做してしまっているのである。堀内寛仁『弘法大師の出家宣言書 三教指帰』の後、主に太田次男、築島裕、佐藤義寛などの優れた写本研究によって新出の古写本が扱えるようになり、『三教指帰』は新しく校訂本を作ることができる段階になった。今後、偽作説のような恣意的な本文操作を生じさせないためにも、今でできる限りの正確な『三教指帰』の校訂本を作ることには、弘法大師研究において必要な課題であると言えよう。

## 【発表】

・「弘法大師の生誕地に関する一考察」(令和四年度第二回高野山大学密教文化研究所研究会、令和四年十月二十一日)。

## 【著作】

・「壘誓指帰と三教指帰―空海大師真作の証明―」大遍照院、2022。

## 【論文】

・「官寺たる東寺と正式名称たる「東寺」―「御遺告」による東寺の私寺化と「教王護国寺」の私称化―」『六大新報』令和五年新春増大特集号。  
・「弘法大師の生誕地に関する一考察」『高野山大学密教文化研究所紀要』36(予定)。

## 令和四年度研究活動報告

専任研究員 徳重 弘志

## 〔研究活動概況〕

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域（弘法大師の思想とその展開に関する研究）、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事している。

本年度の成果としては、① *Guhyananitikā* 第五章における五相成身観の用例の発見、② *Guhyananitikā* 第五章のチベット語訳校訂テキストおよび和訳の作成、③ インドにおける法身説法の展開過程の解明、④ 宋代の儀礼における九鉢杆・九鉢鈴の意図と用途の解明、といった四点が挙げられる。

①に関しては、*Guhyananitikā* 第五章における五相成身観が、同経典の第三章における同一の観想法を補う内容を含んでいることを論証した。

②に関しては、①で研究対象とした *Guhyananitikā* 第五章について、そのチベット語訳校訂テキストおよび和訳を作成した。なお、①・②は「科学研究費」による研究成果の一部である。

③に関しては、先行研究が法身説法と関連付けていた『大日経広釈』と『タントラ義入注釈』とにおける用例を再検討し、前者の段階で法身説法が成立しているとは考え難いことを指摘した。その上で、『楞伽經』の注釈書である『如来心莊嚴』の中に法身説法に関する新たな用例が存在することを指摘した上で、当該の文献においては、肉体を持たない真理そのものとしての法身が、加持によつて菩薩たちに直接知を生じさせることが説法であると規定されていることを明らかにした。

④に関しては、九鉢杆・九鉢鈴が後期密教の伝播した地域で儀礼に用いられていることは先行研究で既に指摘されていたが、それらが何を意図しているのかは不明瞭であり、その用途についても十分な検討が行われてはいなかった。本研究では、入宋した天台宗の僧侶の日記に九鉢杆・九鉢鈴を用いる儀礼が紹介されていることを手掛かりとして、当該の儀礼が『秘密集会タントラ』を典拠としている蓋然性が高いことを論証した。

## 〔研究発表〕

- ・インドにおける法身説法、日本印度学仏教学会 第七十三回学術大会、九月四日（日）、於 東京外国語大学（オンラインリモート会議システムによる開催）。
- ・ *Guhyananitikā* 第五章における観想法について、日本密教学会 第五十五回学術大会、十月十四日（日）、於 種智院大学。
- ・ 九鉢杆の意図と用途について、密教図像学会 第四十二回学術大会、十一月十九日（土）、於 同志社大学。

## 〔論文〕

- ・インドにおける法身説法、『印度学仏教学研究』第七十一巻第二号（掲載予定）。
- ・ *Guhyananitikā* 第五章における五相成身観について、『密教学研究』第五十五号（掲載予定）。
- ・ *Guhyananitikā* 第五章のチベット語訳校訂テキストおよび和訳、

- ・ 高野山大学密教文化研究所紀要』第三十六号（掲載予定）。
- ・ 宋代における九鉢杆・九鉢鈴の意図と用途、『密教図像』第四十二号（掲載予定）。

## 令和四年度研究活動報告

兼任研究員 北川真寛

## 〔研究活動概況〕

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させた。令和四年度は、新型コロナウイルス流行の影響もあり、種々の活動が制限される中、次のような活動を実施している。

① 南山の論義書の輪読会

② 論義に関する調査・研究

③ 南山・智山・豊山による論義研究会の会報の発行

④ 宗学連携事業

i 高野山勸学会への協力

・ 勸学会における講義の実施

・ 勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

ii 山内論義で用いられる論義資料の調査と辞典作成

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後もさらにこれらの活動を進めていく。

参加者・土居夏樹 研究所員・高野山大学准教授

北川真寛 研究所員・高野山大学准教授（事務局）

山本昌芳 高野山大学大学院生

（以上、輪読会発表担当者）

南 昌宏 高野山大学教授

中西雄泰 高野山引撰院

高井知弘 高野山菩提心院

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山本願院

森 寛賢 金剛峯寺法会課

八尾康善 聖無動院

高柳公禪 元密教学科助手

木下智雄 研究員

大北祥之 大学院生

根本享典 大学院生

その他、山内寺院住職・大学院生・大学生など

【輪読会の開催】

・ 二月一七日（金）一三時三〇分～一五時三〇分

土居夏樹 「南山の理法身説法」

北川真寛 「南山の大日経教主」

【研究発表・学術論文】

・ 一〇月一日（土）一三時四〇分～一四時 日本仏教学会

土居夏樹 「真言密教における衆生観―「凡聖六大」を中心に―」

北川真寛 「南山教学における「大日経教主」について―論義書を中心に―」

（『高野山大学論叢』五八）

【真言教学研究会】

・ 九月二日（木）一五時～一七時 於別院真福寺

講演会「鎌倉時代中、後期の高野山 ―金剛峯寺・大伝法院の切磋琢磨と訣別―」

講師・山陰加春夫氏（高野山大学名誉教授・元高野山霊宝館副館長）

・ 三月七日（火）一四時～一七時 於大正大学

「真言密教の教主義」

発表者・土居夏樹・北川真寛・鈴木晋雄（智山伝法院常勤研究員）

【宗学連携事業】

・ 勸学会の期間中に、勸学会出仕者に対して講義を行った（三密双修について）。

・ 『大日経疏』一末下半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータと書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを校訂した。

・ 法談論義で使われる専門用語や、宝門と寿門で読み方が異なる語句など、問講において

参考となる字典（辞典）の作成を目指して、資料の収集や選定、項目の入力作業を行った。

※宗学連携事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の辞典に関しては総本山金剛峯寺法会課・高野山山内住職と共同で活動している。

密教文化研究所構成員名簿（令和五年三月現在 各々五十音順）

○所長

佐藤隆彦（高野山大学教授）

○顧問

松長有慶（高野山大学名誉教授）

○専従研究所員

坂口太郎（高野山大学准教授）

櫻木潤（高野山大学准教授）

○兼任研究所員

菊谷竜太（高野山大学准教授）

北川真寛（高野山大学准教授）

土居夏樹（高野山大学准教授）

野田悟（高野山大学准教授）

松長潤慶（高野山大学教授・副学長）

溝端悠朗（高野山大学専任講師）

南昌宏（高野山大学教授・図書館長）

森本一彦（高野山大学教授）

○専任研究員

大柴清圓（高野山大学非常勤講師）

徳重弘志（高野山大学非常勤講師）

○委託研究員

奥山直司（高野山大学名誉教授）

川崎一洋（高野山大学特任准教授）

趙新玲

トーマス・ドライトライン（高野山大学名誉教授）

那須真裕美（高野山大学非常勤講師）

米田弘仁（高野山大学非常勤講師）

○受託研究員

井川裕寛

大家秀夫

小田博志

木下智雄

木下浩良

静春樹

柴谷宗叔

高橋良久

橋本弘文

○研究所事務室

波多野智人

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、「密教文化研究所紀要」（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 研究所長
- (2) 専従研究所員
- (3) 「紀要」編集担当者

2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

- (1) 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
- (2) 「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成14年5月22日から施行する

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

(1) 研究所長

(2) 研究所員

(3) 研究員

(4) 編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する

執筆者紹介(掲載順)

木下浩良 密教文化研究所受託研究員

橋本弘文 密教文化研究所受託研究員

静春樹 密教文化研究所受託研究員

徳重弘志 密教文化研究所専任研究員

大柴清圓 密教文化研究所専任研究員

トーマス・ドライトライン 密教文化研究所委託研究員・高野山大学名誉教授

テンジン・ウセル 高野山大学特任准教授

藤田光寛 高野山大学名誉教授

編集後記（所長）

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十六号をお届け致します。

八人の執筆者による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

○弘法大師著作研究会では、今年度も研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として刊行し、教学の継承と普及、発展に向けて、また一歩前進した年とも位置づけております。

○今後とも、密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要 第三十六号

令和五年三月二十一日 印刷

令和五年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤 隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学

電話（〇七三六）五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五―三

電話（〇七三）四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七